

研究・調査報告書

報告書番号	担当
175	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Modest wine drinking and decreased prevalence of suspected nonalcoholic fatty liver disease.</p> <p>中等量のワイン摂取と非アルコール性脂肪肝の有病率低下との関連について</p>	
執筆者	
Dunn W, Xu R, Schwimmer JB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Hepatology. 2008 Jun;47(6):1947-54.	
キーワード	
ワイン、非アルコール性脂肪肝	
要 旨	
<p>目的： 冠動脈疾患と非アルコール性脂肪肝(NAFLD)の危険因子を有する人々はしばしば共通している。中等量のワイン摂取と NAFLD との関連は明らかではなく、両疾患の危険因子を有する人に中等量のワイン摂取を推奨するかについては議論がある。本研究では中等量のワイン摂取と NAFLD 有病率低下との関係について検討した。</p> <p>方法： 対象は NHANES の参加者のうち、非飲酒者ならびにアルコール摂取量が一日あたり 10g までのワイン飲酒者とした。NAFLD の診断は血清の正常 95%範囲以上 (男性 30 以上、女性 19 以上) に基づいて定めた測定機関の参照カットオフ値(ALT43 以上)とした。多変量解析にて年齢と性別、人種、近所つきあい、収入、学歴、カフェイン摂取状況、運動状況を調整し、中等量のワイン飲酒と NAFLD との関連を検討した。</p> <p>結果： 非飲酒者 7211 名、中等量飲酒者 945 名が本調査の解析対象となった。測定機関の参照カットオフ値に基づいた NAFLD の有病率は非飲酒者では 3.2%、中等量飲酒者では 0.4%であった。多変量調整したオッズ比は 0.15(95%信頼区間 0.33-0.79)であった。</p> <p>結論： 中等量のワイン摂取は NAFLD の有病率低下と関連を認めた。本研究は冠動脈疾患や NAFLD の危険因子を有する者が心保護を目的として一日あたりグラス一杯のワインを摂取することの安全性を指示する結果であった。</p>	